四夕日刊
磐城時報
福島縣石城郡平町字新舘町十四
編輯兼發行人 岡田弘毅
印刷人 福島縣石城郡平町字鍛屋町十四
印刷所 株式會社活版所
福島縣石城郡平町字鍛屋町十五
發行所 磐城時報社
一部金貳錢一ケ月金參拾錢
廣告料一行十四字詰金五十錢
▲日刊（日曜、祭日）休刊
（大正八年三月廿日第三種郵便物認可）

國道を挾んで二筋の道路を造る

發展膨張した四倉町

縣費補助四分九厘を申請

四倉町は從來國道一本筋の町であつたが近來の發展と殊に夏季に於ける海水浴客や車馬の往復はげしいので之れを緩和すると共に火防その他の点から國道を挾んで西東に二筋の併行三間道路を設ける事となり既に本町東裏の道路は完成し居るその延長仲町裏通りは土地買收、家屋の移轉等の交渉の爲め容易に實現しなかつた處今回やうやく纏つたので工費その他一萬三千圓を以て着手する事になつたので縣補助四分九厘を寄附されたい と陳情した。

▲土木委員會 平町土木委員會は四日午前九時開會し直ちに極楽小路、縣社上り坂、自動車ポンプ倉庫、新川町の土木工事等の出來型を檢査した。

愛林思想 學生に鼓吹

平營林署では林業政策の根本方針を治水並に國土保安にたき公有林野の整理改善等に力を注いで來たが一般民は山林に對する愛護の精神が乏しく山林に對する知識の欠乏を補ふため先づ第一に小學兒童に愛林思想を鼓吹すべく今回郡内小學校に依頼し宣傳に努める事になつた。

石城販賣利用役員會

石城販賣利用組合役員會は五日午前十時から元石城郡役所に開き左の諸件を協議する。

▲事業經過報告
▲將來組合が行ふ事業の設備
▲秋期事業執行準備

農實組合總會

▲泉村大字玉露農事實行組合總會は五日午後一時同村役場で開く。
▲小川村大字下小川字臺農事實行組合總會は六日岡字佐々木嘉久氏宅に開く。

平、豐間間自動車から運轉

七月末か

料金は片道五十錢

夏を控へて各方面で大喜び

地方民から一日も早く實現を期待されてゐる平町、豐間間の乗合自動車運轉計劃は曩に鈴木辰三郎、野崎滿藏の兩氏が競願したが其後兩氏妥協の上事業を共同でやらうといふ事になり共願の形式に變更したので此程許可され其後實規準備中であつた處愈々七月下旬から三十分置き位に運轉する事になつた、料金は本部の菊川忠雄氏縣長に寄り政策等協議の後役員を選擧し支部長に横山顯氏、會計に本間留五郎氏、執行委員に木村泰吉氏外二十余名就任し午後六時から同劇場で演説會を開いたが日本坑夫組合員二百余名の外勞働黨員一般聽衆等三百余名の入場者あり麻生久氏等の演説にさへ野次飛び形勢不穏を極めたが警官の制止により擧なきを得午後九時半萬歳を三唱して散會した。

▲日用品物價 平町に於ける日常品物價五日現在如左。
▲白米四十二錢、四十一錢、四十錢▲白麥十八錢▲麥十六錢▲味噌八十錢▲醤油六十五錢▲清酒一圓▲木炭（檜九）三十三錢（檜割）二十八錢（雜木）二十錢▲砂糖白十七錢、赤十四錢▲豚六十錢、五十錢▲牛八十錢、五十錢

水浴客吸收につとめてゐる豐間海岸では一日も早き實現を望んでゐる。

日勞黨支部

きのふ結黨式

日本勞農黨磐城支部結黨式は三日午後一時から平劇場に擧行し本部の菊川忠雄氏縣長に寄り政策等協議の後役員を選擧し支部長に横山顯氏、會計に本間留五郎氏、執行委員に木村泰吉氏外二十余名就任し午後六時から同劇場で演説會を開いたが日本坑夫組合員二百余名の外勞働黨員一般聽衆等三百余名の入場者あり麻生久氏等の演説にさへ野次飛び形勢不穏を極めたが警官の制止により擧なきを得午後九時半萬歳を三唱して散會した。

早川家御家騒動

清久氏側で控訴す

双葉郡富岡町早川清久氏が同郡木戸村早川信夫氏の財産八萬圓に目が眩み吾が吻にせんとして東京仁井田博士、平町大峯辯護士等を代理人として訴訟を起した所謂早川家御家騒動事件は被告早川信夫氏方では東京鳩山博士、平町眞木辯護士等を代理として約一ケ年に亘つて繫爭した結果早川清久氏側の敗訴に歸した事既報の如くであるが、清久氏側では更に宮城控訴院に控訴したので來る八月十八日之れが第一回辯論が開廷されることになつた。

内郷村の背任事件

無罪を言渡さる

内郷村元收入役根本金三郎、請負師伊藤友三郎等に係る背任事件の公判は去月三十日平支部で開廷され三笠檢事は無罪論を主張したが結局千葉裁判長から無罪の判決言渡しがあつた。

全世界に擴つてゐる磐高女卒業生

磐陽婦人の意氣の發露か

行衛不明は百名

縣立磐城高等女學校は創立以來一昨昔の歳月を經過し卒業生を出すこと千二百八十名で數に於てまた必ずしも多數といふことは出來ないが而も最近の調査に係る同校卒業生の活動範圍は三府二十五縣に亘り更に北海道、樺太、臺灣、朝鮮より遠く滿州、支那に及び更に遙か萬里の波濤を越へて北米、南洋に迄及んでゐる有樣で文明の進歩が年と共に世界の距離を短縮しつゝある結果せよ又世界至る處を安住の地として活躍せんとする磐陽婦人の意氣の發露から見ることが出來て地方將來の向上發展に資する所多大なものあるべしと觀られてゐるが、その現況は概ね左の如くである。

▲卒業者現住調 石城郡七〇三、双葉二郡七四、其他縣内三八、茨城縣四八、其他各府縣二二五、北海道一一、樺太一、臺灣四、朝鮮三、滿州三、支那一、南洋一、米國四、不明九、死亡六五、計一二八〇

▲追善供養競射 磐城會員矢島二郎氏外數名の追善供養競射會を行つた。

白井農銀頭取のシクジリばなし

一日の午前九時一分平發の上り列車に乗り込んだ白井農銀頭取、乗車早々新聞を買ひ込んで讀み初めた迄は無難であつたが、何時もの長道中に引替へて其の日の下車驛は平驛基點僅に八哩九分即ち三里半そこ〳〵の短區間であと泉驛であつたから溜まらない、フト氣がついて讀み耽つてゐた新聞から目を窓外にうつすと汽車は泉驛を後にどん〳〵南進してゐるではないか。

□

折良くも居合せた鉄道關係の人に訊くと恰も好し植田交換の下りがあると云ふので大難が小難に濟んだ事を喜び乍らそこへ下車すると失敗は再轉して一間分の間隙を有する筈の該下り列車は時間の關係から我が農銀頭取の乗るを待たず一沫の煙を殘して北へ去つた。

□

百五十萬圓の農工債券を驛々間に片づけてしまう白井頭取も恁うなつては西海の落日に「待つた」を食はした清盛の假聲もつかへず已むなく驛長室に入つて次の列車迄の一時間十三分を植電訪問に善用しようとすることゝなつたが失敗は茲に三轉「誤乗で當驛迄來れたのだから次列車迄此處から動いては困ります」と來たその内代議士時代から頭取の顔を見知つてゐる驛員が來たので事の次第がわかり十時五十分植田發の下りで泉、下車しそれから自動車上京しい濱風に當つて始めてホッとしたそうな。

□

「新聞の記事が、特殊銀行下半期の利率協定に關する記事だつたものだから遂深入してしまつてねえ……」と白井農銀頭取が小名浜灣頭快よい冷涼の海風を滿喫し乍らカンラカンラの大笑ひばなし……。

深緑の葉陰より

（二） Y 生寄

私は、たやすのツリの話術のワナにツリ込まれ、つか一度ツリに行こうと約束した。

「明日はツリだ」

父が宣言する時、私は、いやだけれど仕方がないから、一度は伴をすることゝ、と觀念して見た。

しかしその結果、毎日〳〵たやすの友達仲間となつて、飲み助が一轉して、ツリ氣狂ひ」となつてしまつたら大變だ。と考へる。

時將に三十時、酒屋の借金、印刷屋の借金、旅亭の借金にホト〳〵閉口して、自分は、深緑の葉蔭、涼風を浴び乍ら、ココばかりは浮世の外と、金井錢の文藝春秋七月號を、夫れから〳〵と讀み耽る。

實は昨夜父と約束した、ツリ行きを果たさず、きぞたやすは淋しく大川河畔、ポツチンと川面を見入つて居る事であらうと、一片良心の呵責を感じ乍ら、春秋掲載大郁夫先生の社會時評の名論卓説を再三度讀み返し乍ら、かう考へた。（卅日午後五時認む）

▲科料言渡數

平警察署に於ける六月中科料言渡件數は六十五件で最も多いのは無燈火自動車の十六件である。

磐城青年同盟設立趣意書

磐城青年同盟會發會式は五日午前十時から四倉座で擧行の學既報の如くであるが設立趣意書左の如し。

社會百般の事相が、內外共に愈々多岐多端となれる我國の現狀と、間斷なく進む時代の推移とは、吾々青年を奮起せしめ、茲に磐城青年同盟會の創立を見るに至つた。

德川三百年、武陵桃源の夢果敢なくも勤王倒幕の聲に破られ、世は明治維新となり、廢藩置縣の令、憲法の發布、議會の創始等維新の大業成り、世界列强と伍し、武威を四海に誇る東洋帝國の存在を世界に宣揚し、明治、大正を經て昭和の御代となつた。然るに間斷なく續く世界の經濟戰が其の根本原因をなし、內は政治に、教育に、宗教に、あらゆる社會生活の基礎をなす問題は墮落の道を辿り、廢頽の淵に迷ひ、混迷の底に蹉くが如き現象を呈し、外は我國外交の方針が世界列强環視の的となり、政策遂行の上に幾多の困難が横たはつてゐる實に內外共に復雜多事と言はざるを得ない。時恰も昭和の御代　畏れ多くも新帝維新の大業を圖る道を御示しになつたのである。

吾々青年は、此の千載一遇の重大なる時期に當面し、我々の國民的責務について深く省察すると同時に、現代社會に於ける我々の歷史的使命を完全に遂行すべく努力する覺悟を持たねばならない。

是に於て吾々は宗教、教育、經濟、思想其の他あらゆる問題について眞劍に研究し、現代の新智識を吸收すると同時に、質實剛健なる氣風を涵養して產業の隆昌と國民精神の振興を圖り、仍て以て國力を增進し社會生活の向上に寄與し更に進んで列强の間に於ける我國民の地歩を確保し、人類文化の爲に貢獻する必要を痛感するのである。

吾々は斯の如く自覺せる以上最早一日も安閑として居る事を許さない。茲に於て我磐城青年同盟會が磐城の天地に孤孤の聲を擧げたのである。

時代の趨勢に目醒め、昭和維新の大業に盡力せんとする有爲の士よ！奮て吾等の擧を援け相共に大飛躍を試みん事を冀　熱血を披瀝して親愛なる同志に檄す。

旅館常盤
松ケ岡公園は
深緑に變る
緑滴るばかりの
公園池畔
初夏の情景
を充滿ひあれ
松ケ岡公園池畔　電話二二六番

大和日醫院
耳鼻咽喉科
平町南町
電話一七〇番

東京株式清算取引高低表

（東株ハ當中先限他株ハ先限ノミ）

◎第一部　寄付止

東株（當）		白煉	三三四
（中）		日セ	久原
（先）		茂野	七八三
同新（當）		同新	同新
（中）		三五三	日石
（先）			
郵船	七〇〇	磐セ	五八四
同新	同新	久原	五三二
富紡	二	同新	一六六
同新	一八	日石	
鐘紡	二〇		
向新	同新		
日糖	塩糖		
同新	五〇七		
麥酒		自動	三四六
同新		同新	樺太
		富紙	日魯
		同新	同新
		日粉	一一〇
			九四〇

◎第二部

同新	二三一	塩水	五一二
二新	一二三六	久原	五九
塩糖	九二七	新淺	三五
同新	濱取	日石	五一
高島	一七五	新鐘	三三
麥酒		東	一三八九
熱帶	六二三		

◎第三部

樺太	一二四七	塩水	五一二
日魯	一一〇	久原	五九
同新	九四〇	新淺	三五
日石		日石	五一
新鐘		新鐘	三三
東		東	一三八九

短期前場

寄付	高値	安値	引値
塩水	五一二	五一二	五一〇
久原	五九	五九	五九
新淺	三五	三五	三四
日石	五一	五一	五一〇
新鐘	三三	三三	三二九
東	一三八九	一三八九	一三八五

東京商品取引

（七月四日前場）

◎期米

六限	七限	八限	
一節	三七六五	三七八九	三七八一
二節	三七六八	三七八一	三七八二
三節	三七六八	三七八二	三七八三
四節	三七六三	三七八〇	三七八〇
五節	三七六二	三七七七	三七七四
六節	三七五四	三七六九	三七七〇
七節	三七四五	三七五六	三七六〇
八節	三七四二	三七五九	三七五四

◎綿糸

七限	三二一〇	三二一二	三二一五
八限	三二三五	三二三七	三二三七
九限	三二五七	三二五九	—
十限	三二七五	三二七四	三二七四
十一限	三二八〇	三二七六	三二七八
十二限	三二八七	三二八八	三二八〇
一限	三二九一	三二九二	三二九二

◎生糸

一節	二節	三節	四節
七限	一四一九	一四一六	一四一三
八限	一四一九	一四一九	一四一六
九限	一四一〇	一四一九	一四一六
十限	一四一〇	一四一〇	一四一九
十一限	一四一〇	一四一九	—
十二限	一四一九	一四二一	一四二五

新治淋藥
ラウタール
一、其偉効顯著なるに驚く
一、眞に淋病、消渴の特効新藥なり
一、惱み苦しむもの直ちに試みよ、必ず救はれん
定價三圓也　重症五拾圓
代理店　野邊藥局　平町五丁目角

最も優秀なる効力を有する新藥
腦を健やかにし精力を增し血色を美くする藥
「神汁」
藥價壹圓、貳圓、參圓、五圓
代理店　大平屋藥店　平一丁目　電話六四二

涼しき
丈夫な白靴
弊店特獨白革底
自製品
A 金壹圓
B 金六圓
1 シミにならぬ
2 かるく丈夫
3 三夏はけた
外各種出來合品有り
運動のシーズン
各種運動衣豊富
大塚支店　製靴部　運動具部
磐城平田町（電話七〇二番）

開始
柳川
御一人前出前
四拾錢迅速
本年も相變らず御贔負の程願ひます
牛肉
御料理
石川亭
平町田町（電話四三番）

◎簡易の金融—誠意と堅實　◎趣味　貯蓄—確實と安全
▲絶へず會員を募ります　▲何時でも御申込下さい
大藏省
免許
磐城無盡商會
本店植田町本丁　支店平町中丁

◎酷暑を避けて!!!
海へ!!!
山へ!!!
海水浴着と登山袋
携帶用鞄各種
運送に最も理想的なズック製布團入
ツルヤ洋品店
平町四丁目（電話百四十番）

靴とかばん
◎御注文は特に勉强
◎既成品も豊富にあります
平町搔揶小路（役場前）
福山靴店

◎夏の御家庭になくてはならぬ
專賣特許衛生試驗所證明
飲食品防腐器
御飯はスエヌ、醬油はカビヌ、酒はクサラヌ。
飲食物一切のクサリとカビ止器（一個三十錢）
平町四丁目　電話一四四　小野屋藥舗

金牛天專門
優秀品の證明
牌
受領
草野染工場
磐城平町
電話三四八番

◎徒弟入用（徒弟契約に付ては事明きに際し有利に御相談申上候）

階上食堂
同伴者の設備あり
美味で評判の
イワキ食堂
平町縣社通
電話四六〇番